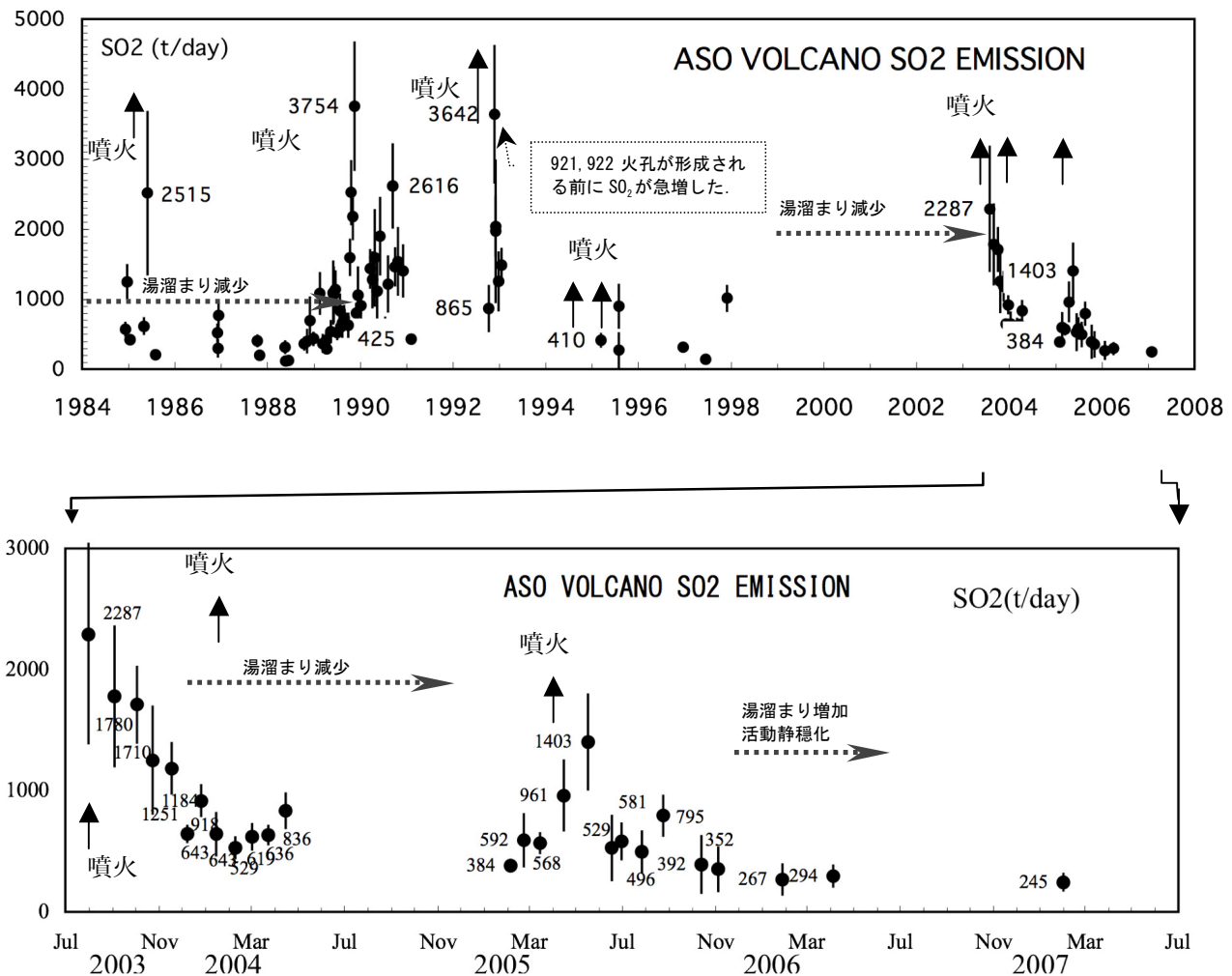


阿蘇火山の二酸化硫黄放出量



九州大学では COSPEC を使ったトラバース法により、1984 年から定期的に二酸化硫黄放出量を測定している。

阿蘇火山の二酸化硫黄放出量は、火山活動と密接に関連して変化している。噴火期間中は 2000 ton/day を超えるが、静穏期には 500 ton/day 以下である。また二酸化硫黄放出量の変化は、火山の表面活動に先行して現れることが多い。

2003 年 7 月 10 日の火山灰噴出以降、火山活動が活発になり、それに対応して 7 月 31 日には 2287±903 ton/day の高放出量が記録され、これは 1989 年の活動期や 1992 年 11 月の火孔の開孔前と同等レベルである。

その後は徐々に二酸化硫黄放出量は減少したが、2005 年 4 月 14 日の小規模な噴火に伴い一時的に増加した。さらにその後は 300~800 ton/day 台で推移し、2007 年 1 月 31 日の測定では 245 ± 77 ton/day と静穏期レベルの放出量となっている。

*松島 健・松尾綱道・齊藤政城・渡邊篤志・清水 洋・福井理作・太田一也